

## エコロジカル・ネットワークとは？

### (1) 生物多様性の重要性

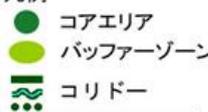
- 私たちは、自然から、食料、燃料、水など様々な恵みを得て暮らしてきた。私たちの周囲には、今日、里山里海と表現される、生活に必要な資源を持続的に得ることができるよう人が賢明に維持管理する場所があり、その背後には、山の神などが司る場所として、人があまり入ることがない自然がある。こうした自然から、食料や燃料、そしてまた、水源涵養・国土保全・気候調節、美しい風景など、私たちの暮らしを根底で支える様々な恵みがもたらされてきた。すなわち、私たちは自然を賢明に利用し、持続可能なかたちで国土を管理し、地域ごとに固有の優れた生活様式や生産様式などの文化を育ててきた。
- こうした様々な自然の恵みは、今日、「生態系サービス」と呼ばれ、これを享受し続けることを可能とするためにはその源となる生物多様性を保全していくことが重要となる。
- しかし、この一世紀あまりの間に、人口が急増し、生活や産業のあり方が大きく変わり、人と自然との関係も大きく変化してきた。科学技術の飛躍的な進歩を背景に経済発展を遂げる一方、各種の開発、生態系の許容力を超える国土利用を続け、今、生物多様性は危機的状況にある。





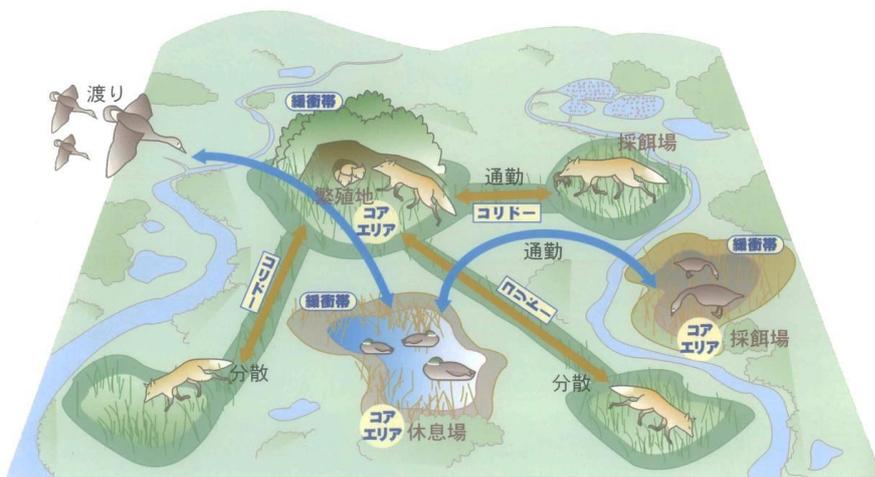
## (2) エコロジカル・ネットワークとは

- 生物多様性の保全は、国土の全域で十分に配慮していくべきことであるが、この実行をすぐに求めることは非現実的である。そこで、対象となる地域において優れた自然条件を有する場所を、生物多様性の拠点（コアエリア）として位置づけつつ、野生生物の移動・分散を可能とするため、コアエリア間を生態的回廊（コリドー）で相互に連結させる「エコロジカル・ネットワーク」という考え方が重要となる。コアエリアやコリドーについては、外部からの影響を軽減するための緩衝地域（バッファゾーン）を必要に応じ配置していくことも、エコロジカル・ネットワークの重要な要素である。

凡例  




出典：環境省.2009年  
 「全国エコロジカル・ネットワーク構想(案)」



エコロジカル・ネットワークの形成要素とその空間配置（模式図）  
 出典：「人と自然との美しい共生 エコロジカル・ネットワーク」（国土交通省 H16.3）

- 生物多様性の保全を効率的かつ効果的に進めるためには、地域の自然的・社会的状況を踏まえ、このエコロジカル・ネットワークのおおよその姿を先ず明らかにし、これに沿って各種の具体策を展開していくことが重要となる。

- エコロジカル・ネットワークの形成に当たっては、地域の生物多様性の状況や、エコロジカル・ネットワークの形成によって実現を目指す社会経済上の成果も考え、いくつかの野生生物をシンボルとして位置づけて進めることが国際的にも有効とされている。
- エコロジカル・ネットワークの形成に向けた各種施策の展開に当たっては、生物多様性の保全を主目的とした取組みと共に、農林水産業、防災・減災対策などを主目的とする事業における生物多様性の保全への取組みが非常に重要となる。エコロジカル・ネットワークの形成は、この意味で多様な主体の協働・連携、地域連携のシンボルともいえる。

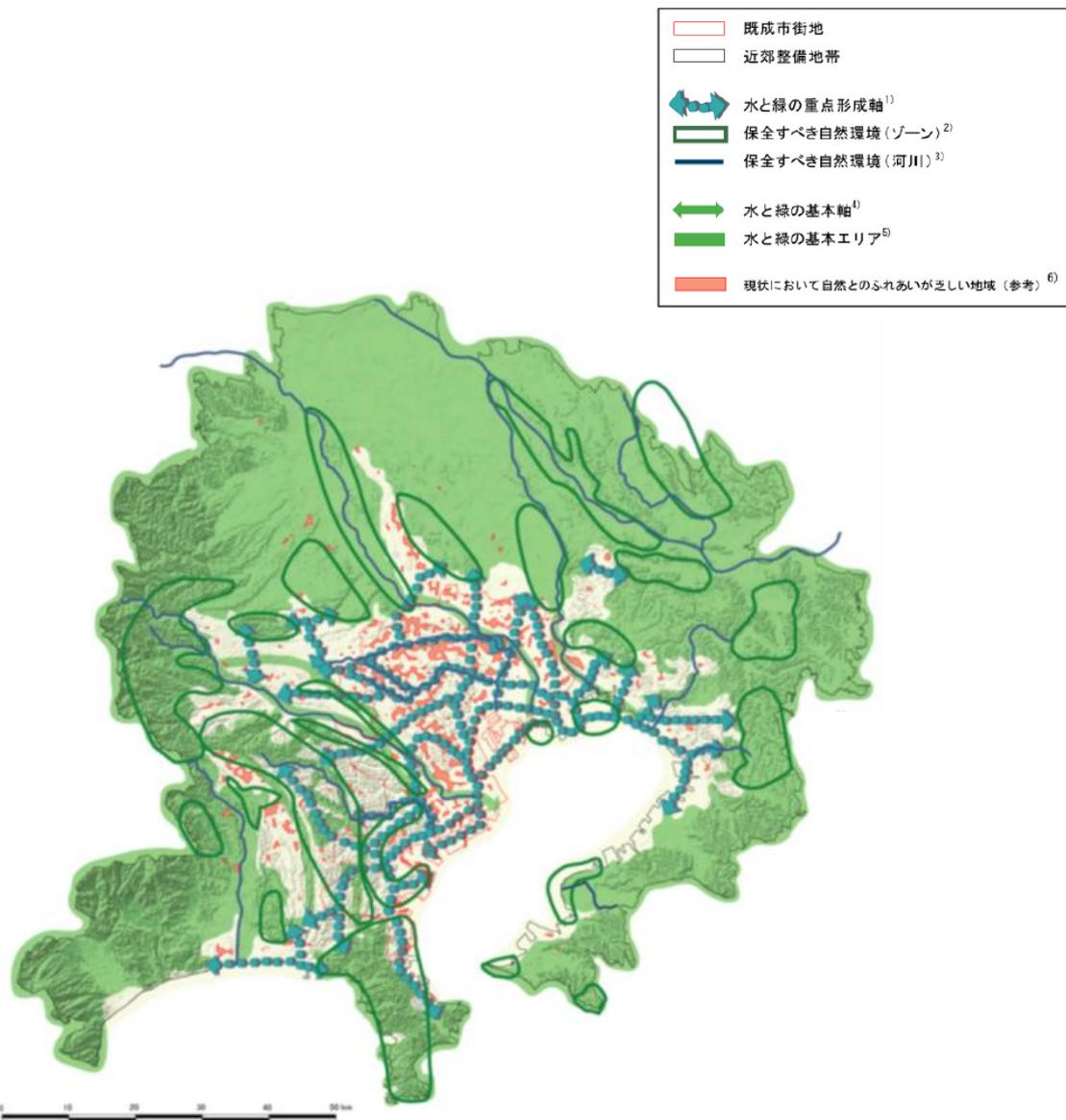
●エコロジカル・ネットワークとコウノトリ・トキの生活

コウノトリ・トキは、生態系の上位に位置する種であり、数kmから数十kmにわたる広域な行動範囲の中に巣やねぐら、餌場をはじめとした多様な環境要素で構成される飛び石のネットワークを必要とする。さらに、餌となるカエルやドジョウ等の水生動物を十分に供給するためには、水田、水路、河川がつながる水系等のきめ細かな連続的なネットワークも必要となる。

このように、コウノトリ・トキの生存基盤を支えるためには、行政界の枠を越えた広域にわたる山林、農地、河川・水路、さらには道路、電線等をはじめとしたインフラにおける各種施策の広域的・計画的な整合性が必要とされる。



- 首都圏においてもエコロジカル・ネットワークの具体的な検討が以前から取組まれてきている。平成 16 年 3 月には「自然環境の総点検等に関する協議会」が「首都圏の都市環境インフラのグランドデザイン」をとりまとめ、この中に都市環境インフラの整備が目指すべき将来像として、「首都圏の自然環境の基本目標を達成するために、現状において想定される首都圏の水と緑のネットワークをさらに充実、強化しようとするための根幹となる構造」を提示し、首都圏における行政、市民等の多様な関係主体が長期的に目指すべき首都圏の自然環境の保全、再生、創出の考え方及び施策や取組みの方向性を示すものとして、都市環境インフラの整備に関わる主体が共有する目標像としてのネットワーク図が描かれている。



出典：「首都圏の都市環境インフラのグランドデザイン」  
 （自然環境の総点検等に関する協議会、平成 16 年 3 月）

- 多摩・三浦丘陵では、「首都圏の都市環境インフラのグランドデザイン」を心まえ、13自治体の広域連携として「多摩・三浦丘陵の緑と水景に関する広域連携会議」を設置し、関連する各自治体の緑と水景の拠点をネットワークすることによって、実際に市民がその緑や水景にふれあえる既存の遊歩道やハイキングルート、砂浜などを活用した具体的な緑のつなぎ手を表現する「みち・軸」を広域連携トレイルとして10箇所設定し、その詳細について検討を進めてきている。



「多摩・三浦丘陵広域連携トレイル図」

出典：「多摩・三浦丘陵の緑と水景に関する広域連携会議」資料より

- このように地域の自然的・社会的状況を踏まえつつ、エコロジカル・ネットワークを形成する取組みは、生態系が有する多面的な機能・サービスの強化に貢献するものとして、「グリーンインフラ」とも呼ばれる。「グリーンインフラ」とは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めることを意味し、この取組みを推進することで、地域の魅力・居住環境の向上、居住が集中している地域の安全性の担保、生物多様性の保全、防災・減災等を可能とする。